

エリアで考える“まちの魅力”



多様な主体が対等な立場で意見を交わし、地域の未来を共に考え、地域の賑わいや新たな価値の創出を図ることを目的として発足した「養老町エリアマネジメント勉強会」が、6月26日(金)に町役場4階大会議室で開催されました。第1回目となる今回は、エリアマネジメントの考え方や先進事例についての講義を受け、理解を深めるとともに、養老町のエリアごとに強みや弱み、チャンスとなるものの現状把握を行いました。

本会議では「町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略」に基づき、エリアマネジメントの手法を活用し、養老町の魅力や地域資源を生かした全体計画の検討、個別事業の実施計画の作成を行います。

住み続けたいと思える魅力あふれるまちに



株式会社アクセス(大垣市)より、ネクスト100プロジェクト事業に対し、企業版ふるさと納税制度を活用して100万円を寄附いただきました。同社からは令和2年より継続して寄附をしていただいています。

6月12日(金)に上田淳太郎代表取締役が川地憲元町長を訪問し、「小学校の統廃合について新聞で知りましたが、少子化や人口減少の影響を改めて実感しています。養老町の魅力を発信することで、観光客を呼び込むとともに、今住んでいる人たちがずっと住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていってください」と話しました。

いただいた寄附金を活用して、養老らしさと魅力があふれるイベントを開催いたします。

歌で通う心



6月14日(日)に町中央公民館 中ホールにおいて、身体障害者福祉協会養老支部、養老町知的障害者(児)親の会(れんげの会)、養老福祉作業所、グループホームれんげの家のコンサート交流会が開催され、ソプラノ歌手の安藤風季さんとエレクトーン奏者の大谷泰史さんによるコンサート、劇団シンデレラによる「特殊詐欺防止啓発劇」と岐阜県警察による講話が行われました。コンサートでは、オペラの有名曲や誰もが知っている歌謡曲や童謡が披露され、アンコール曲の「365日の紙飛行機」を参加者と一緒に歌うことで心を通わせ、会場がひとつになりました。寸劇と講話では、詐欺に引っかからないため、参加者は真剣なまなざしで観覧し、学びある時間としました。

紡がれていく歴史 迎えた100回目



7月1日(水)に養老の滝前広場において、第100回養老の滝開き式(町観光協会主催)が開催されました。養老の滝開き式は1924年(大正13年)から続く、夏の観光シーズンの始まりを告げる伝統行事です。

読経と献香の後、山伏姿の修験者により四方に破魔矢が射られ、養老へ訪れる観光客の安全や招福を祈願しました。その後、護摩壇に火がたかれ、滝の水が酒になったという孝子伝説にちなみ、竹に入れて護摩の火で清められた日本酒「不老長寿の笹酒」が見物客に振る舞われました。今回は、雅楽松風会による舞楽、手筒花火師「瓢」による手筒花火、養老象鼻山太鼓の会による演奏も披露され、第100回目という記念すべき節目を華やかに彩りました。